

論文の内容の要約

氏名	林田 朋幸
学位の種類	博士 (農学)
学府又は研究科・専攻	連合農学研究科 農林共生社会科学 専攻
指導を受けた大学	東京農工大学
学位論文名	大規模林業地帯の山林管理と地域社会組織に関する研究 ——山世話に着目して——

【論文の内容の要約】

本研究では、山村社会の社会経済構造を捉えるために、林業経営と地域社会組織の連関について解明することを課題とした。特に、大規模林家及び山守層（山世話）を中心とした社会関係を考察した。

これまで大規模林業地帯に関しては主に林業経営に着目した研究が行われてきたが、経営的な社会関係だけでなく様々な生活の場面における相互扶助が、林業経営を支える側面も無視できない。本研究では、山村特有の社会経済構造を明らかにするため、山世話に着目して大規模林業地帯の山林管理と地域社会組織の連関を考察した。本研究の調査対象地域は、大規模林業地帯の三重県松阪市波瀬地区とした。波瀬地区では、明治時代から山世話と呼ばれる山林管理者が存在し、不在地主から委託され山林管理を行っていた。調査方法は、山世話等の林業関係者への聞き取り調査と、林業関係や地域社会組織に関する一次資料の収集・分析である。調査は2013年4月から2015年9月にわたり、計16回行った。

本研究を通して、大規模林業地帯において、大規模林家—山守層・自営林家—山林労務者のつながりによって形成された、広域的な地域社会の展開が明らかとなった。波瀬地区では明治時代から村落を越えた山林所有が行われ戦後に村有林が私有林となり定着したため、山世話による山林管理が長年にわたり行われてきた。また、山世話と不在地主の信頼関係が、熟練技術による長期間の山林管理や、契約関係を越えた関係により結ばれることで、広域的なネットワークに及ぶ地域資源管理が行われてきた。山世話は、広域的な住民自治組織と従来の住民自治組織をつなぐ存在としても重要な役割を果たしてきた。そして現在は、新たな担い手の参加により、大規模林家—山世話・自営林家—山林労務者の林業ネットワークに基づく地域運営が補完されていることを示した。